

# 令和6年度皇學館おかげキャンパスプロジェクト報告書

教員名：駒田聡子

分野： 産業

項目	内容
計画名	みえのお米とお茶ええやんプロジェクト
実施期間	令和 6年 7月 20日 (土) ~ 令和 7年 1月 31日 (金)
活動内容 と 実績・成果	<p><b>活動内容</b></p> <p>1. フレンテ三重でのイベント開催：津市教育委員会、亀山市教育委員会の協力を得て、市内在住親子向けお米（結びの神）と伊勢茶のイベントを開催した。当日は、急須でお茶をいれる体験、伊勢たくあんでおむすびを作る体験、伊勢茶粉茶でケーキを作る体験をした。参加者からは急須でいれるお茶の味の良さについて初めて知ったことや、結びの神の覚めてもおいしいという特徴について体験することで「買ってみよう」という思いになったという意見が聞かれた。秋にも開催予定であったが会場が回収のため使えず、2. に示す津市中央公民館を借りての講座を行った。2. 毎月第4土曜日津市中央公民館：同じく伊勢茶を急須でいれる体験、結びの神を使ったアレンジご飯、伊勢茶を使ったお菓子などを親子対象に開催した。3. 亀山市サマーキャンプでの講義：亀山市教育委員会主催のサマーキャンプにおいて、3年生学生が作成した教材を用いて、伊勢茶（亀山茶）についての講義を行った。4. 大学生に対する授業：大学生に対して伊勢茶のアンケートを取りその結果を基に、学生2名がスライド教材を作成し、児童家庭の授業で実践も伴った授業を行った。</p> <p>1. については、午前・午後開催して定員20組に対して60名の参加者だった。2. については、毎回組の親子が参加したが、後半では小学生親子に加えその弟や妹たち（未就学児）も参加して、お茶体験・お結びづくりを楽しんだ。3. は、小学生、中学生が約30名参加した。4. は、55名の学生が参加した。〈総括〉数々のイベントをする中で共通して参加者からきかれた内容は、「実践して実際に理解した」すなわち、「伊勢茶は伊勢で作られるお茶ではなく三重県で作られるお茶であること」、「急須でいれる伊勢茶のおいしさ」、「マイボトルを使うとエコなお茶が飲めること」、「冷めてもおいしい結びの神の特徴」である。また、昨年度作製したお茶ピットを用いたエコボトル作りを通じて、伊勢茶への親しみを持ったという声も聴かれた。学生たちについては、その後の実習時に「急須でお茶をいれたい」という要望が毎回みられ、急須でお茶をいれる体験を今後も続けたい（学校現場も含め）という声が聴かれた。このように本年度は数々の体験の機会を設け、その参加者に向けてだけとはなったが、みえのお米とお茶ええやんということを理解してもらえることができた。</p> <p><b>連携協定先より提供を受けた資源</b> 三重県農林水産部様より「マイボトル用の伊勢茶」、「結びの神のパックご飯」/おかげ横丁・傳兵衛様より「伊勢たくあん」</p>
参加者	駒田聡子(教育学部教授)、4年生11名、3年生11名、2年生11名 (2年生は10月より参加)
今後の活動・展望	次年度は伊勢茶普及の活動として、申請者が本年度収集した全国の有名な企業が出している「簡単に緑茶を入れられるパック」や「お手軽急須」などを参考にし、それらの工夫を伊勢茶に取り入れられないかについて三重県茶業会議所に相談して、より具体的商品化につなげていきたい。結びの神については米の確保が困難になる可能性もあるが、その時は三重県産コシヒカリなど他の品種に変更を図り、お結びづくりを中心に手軽に食べてもらうアイデアを提案し、SNS発信、および調理体験を展開し、その良さを特に子どもを持った家庭に向けて伝えていきたい。
記録	<p>7月29日 フレンテみえでの実践 寄付された結びの神パック米・伊勢たくあんでお結び、ケーキ作り体験</p>  <p>メンバーによる伊勢茶についての講義と実践</p> 